

表紙写真 吉野 信

西武百貨店の関連会社である八ヶ岳高原ロッジにて写真家・吉野 信氏が撮影した作品です。ベニシジミがカラマツにとまり休んでいたところに雨が降ってきました。ベニシジミの触角にも水滴が見えます。自然界がおりなすハーモニーが八ヶ岳の自然を幻想的に演出しています。

お問い合わせ

株式会社 西武百貨店
店舗運営部環境推進担当

〒171-8569

東京都豊島区南池袋1丁目28番1号

西武百貨店池袋本店書籍館6階

電話 03(5949)3514

FAX 03(5949)3550

西武百貨店ホームページ

<http://www.seibu.co.jp/>

*トップページの「お問い合わせ」から、インターネット経由でもご質問などをお受けしています。

発行日 2005年9月30日

次回発行予定 2006年8月31日

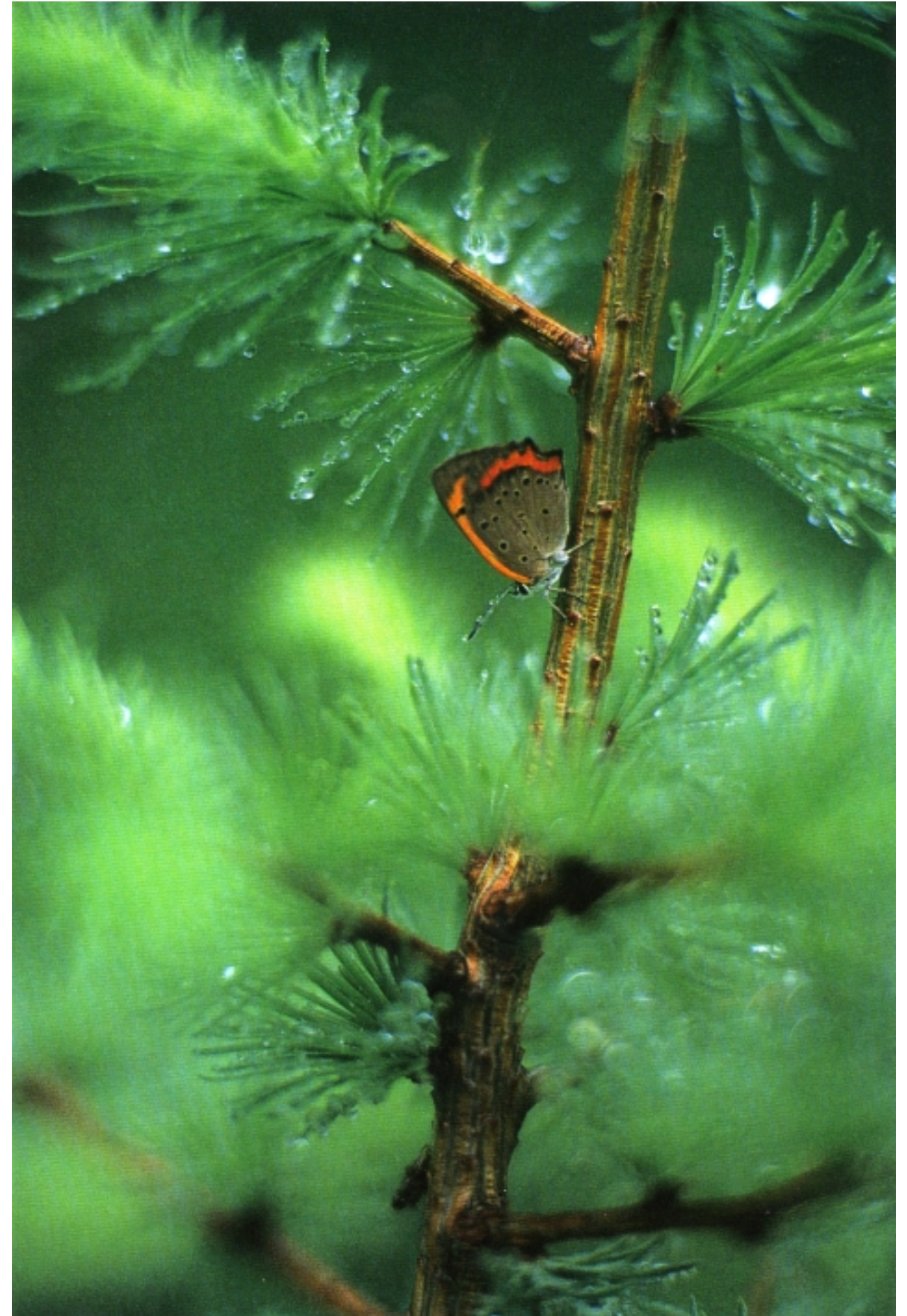
前回発行日 2004年8月31日



本誌はエコマーク認定の再生紙・大豆油インキを使用し、再生可能です。

環境・社会活動報告書 2005

株式会社 西武百貨店



環境にやさしい、そして人にやさしい百貨店

CONTENTS

- 1 編集方針について
- 2 会社概要

西武百貨店がめざす環境活動

- 3 コミットメント
- 5 中期環境ビジョン
- 7 西武百貨店の事業活動と環境保全活動
- 9 環境にやさしい店舗づくりと店舗オペレーション
- 11 環境にやさしい商品やライフスタイルを提案

西武百貨店の環境マネジメントシステム

- 13 環境マネジメントの仕組みと運用状況
- 15 環境教育による環境意識の向上
- 16 全社員アンケートから
- 17 環境マネジメントシステムの点検と改善
- 19 2004年度の活動結果
- 20 2004年度環境会計

西武百貨店の社会活動・地域活動

- 21 店舗の地域活動報告
- 25 環境にやさしい、そして人にやさしい百貨店として
- 26 ノーマライゼーションへの挑戦
- 27 お客さまに信頼される百貨店をめざして
- 29 西武百貨店の環境・社会活動に関する情報提供
- 30 環境・社会活動の歩み

【編集方針について】

西武百貨店は1999年4月、百貨店業界で初めて国際環境規格ISO14001を取得し、その翌年2000年より環境保全活動の報告書を発行してまいりました。2003年度からは、『環境・社会活動報告』として社会貢献活動も含めた報告書に改め、今回で通算6冊目の発行となります。本年度も環境側面を中心に社会的側面、経済的側面を含めご報告いたします。

今年は京都議定書の発効や愛知万博の開催などを契機に、未来の地球環境や持続可能な社会の実現といったテーマを地球規模で考え行動するエポック・イヤーとなりました。そのような中で社会の公器として企業が担う社会的責任は、ますます増大しています。小売業の使命として、お客さまやお取引先の方々、行政機関など、私たちを取り巻くさまざまな方々に環境・社会貢献活動の取り組みに対する理解を深めていただくとともに、皆さまのご理解とご協力をいただきながら、私どもの活動をさらに発展させたいと考えています。

本報告書は、環境省『環境報告書ガイドライン(2003年度版)』を踏まえ「環境報告書作成基準案」に定められた基本的枠組みに沿って作成しましたが、この報告書を多くの方々とのコミュニケーションツールとして活用したいと考えています。

本報告書について、皆さまからたくさんのご意見・ご感想をお寄せいただくと幸いです。

<本報告対象期間>
2004年度事業年度(2004年3月~2005年2月)
*一部2005年3月以降の報告と中期目標を含みます。

<報告対象組織>
ISO14001規格取得サイト
株式会社西武百貨店18店舗・全事業所
株式会社ミレニアムリテイリング商品本部、テナント本部、総務本部

<報告対象分野>
環境的側面・社会的側面・経済的側面

<参考>
環境省『環境報告書ガイドライン(2003年度版)』
環境省『平成15年度環境報告書基準委員会報告書』
経済産業省『ステークホルダー重視による環境レポートガイドライン2001』
GRI『GRIサステナビリティレポートガイドライン2002』

<発行>
株式会社西武百貨店

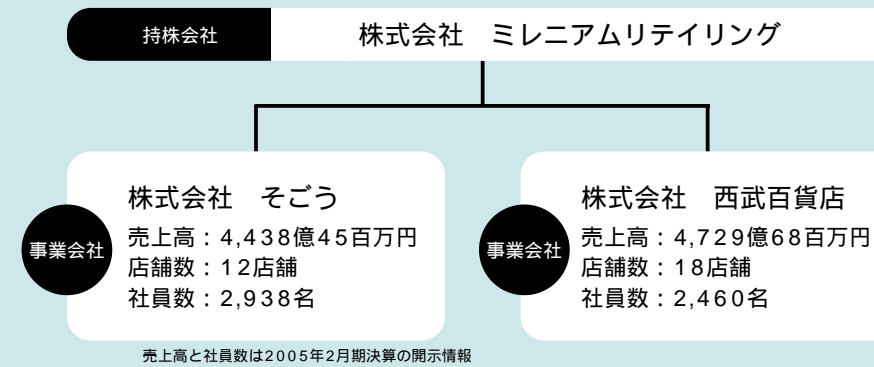
会社概要

(株)西武百貨店は(株)そごうとともに、2003年6月より次世代へ向けた百貨店グループ「ミレニアムリテイリンググループ」の一員として新たにスタートしました。
(株)ミレニアムリテイリングは持株会社として本部機能を担い、(株)西武百貨店ならびに(株)そごうは、事業会社として百貨店事業の運営機能を担っています。

株式会社 ミレニアムリテイリング (Millennium Retailing, Inc.)

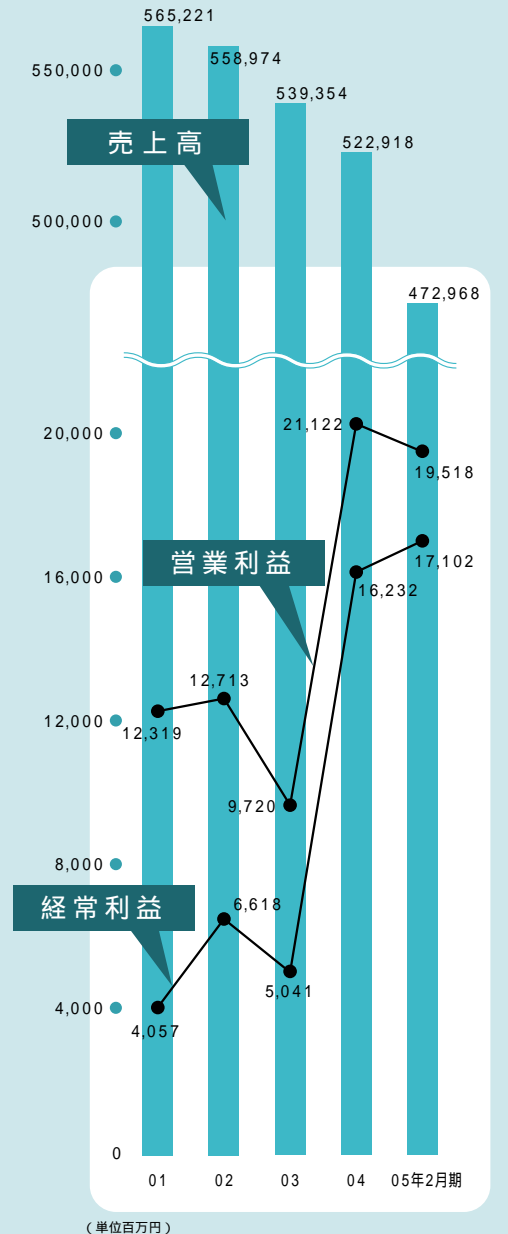
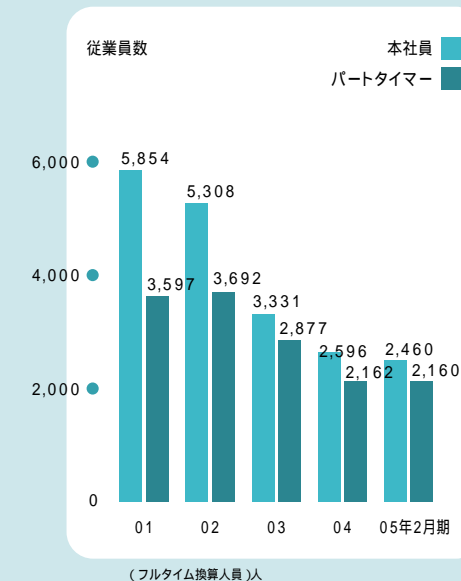
本社所在地 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目1番2号 (JFEビルディング)
設立 1952年7月25日
代表者 代表取締役社長 和田繁明
Home Page <http://www.millennium-retailing.co.jp/>

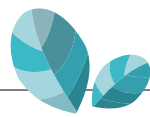
ミレニアムリテイリンググループの構成



株式会社 西武百貨店 (The Seibu Department Stores, Ltd.)

本社所在地 〒171-8569 東京都豊島区南池袋1丁目28番1号
設立 1940年3月14日
資本金 10億円(2005年9月末現在)
代表者 代表取締役社長 大崎文明
事業内容 百貨店業
店舗数 18店舗
Home Page <http://www.seibu.co.jp/>





企業の社会的責任が増大するなか、私たちは事業環境・社会貢献活動を通して「次世代に続く豊かな

株式会社 西武百貨店 代表取締役社長 大崎文明

企業市民としての社会的責任

私たちは、地域に根ざし日々消費者の皆さまと接点を持つ小売業として、単に経済的側面だけでなく、環境活動や社会貢献活動を通して、地域とともに次世代に続く豊かな社会づくりを実現する社会的責任を担っています。

昨今、企業の倫理観を問われる事故や事案が後を絶ちません。私たちは当社に働くすべての従業員の行動指針として「全社行動基準」を掲げ、その第一に「常に社会の一員として自覚をもって行動する」ことをあげています。これは、地域貢献を果たす企業としての責任を全員が自覚し、日頃から公平公正に行動し、地域社会やお客さまから永続的な信頼を得る努力をすることを意味しています。ますます企業の社会的責任が問われるなか、私たちは地域に役立つ企業としての活動に全員で取り組んでまいります。

ISO14001 認証取得企業としての環境・社会活動

西武百貨店は1999年4月に百貨店業界で初めてISO14001認証を取得しました。翌2000年度から「環境活動報告書」を発行し、当社の環境保全活動をご報告しています。

法令順守による環境リスクマネジメントはもとより、お取引先に協力いただいた納品代行システムの拡大による車両の削減、お客さまのご理解にもとづく簡易包装の推進、ギフト商品を中心とした環境配慮商品の選定（05年7月末124アイテム）店内で

発生した生ゴミを生ゴミ処理機でコンポスト化する（池袋本店をはじめ4店舗に導入）など、小売業としてお客さまやお取引先、地域の方々とともに環境保全活動に取り組んできました。今後も地域と一体となった活動を強化してまいります。

地球温暖化への取り組みの強化

本年は2月16日に京都議定書が発効し、地球環境問題に対する極めて重要な第一歩を踏み出しました。私たちも中期環境目標として、本年度から「4つの柱と9つの取り組み」を設定し、新たな活動フェーズをスタートさせました。

そこではお客さまや地域とのコミュニケーションとともに「温暖化対策」を重視し、掲げています。営業機会が拡大するなか、いかに日々の営業活動での電力使用量の削減を図るかは最重要課題です。各事業所での中期的な電力使用量の削減目標を設定し、従業員はもとよりお客さまやお取引先のご協力もいただきながら環境負荷削減に取り組んでいます。社内では、節電プレートの活用、適正な室温維持、階段の利用促進（2up3down運動）などの取り組みも強化しています。

また、環境省の呼びかけを受け、一昨年から昨年にかけ「温室効果ガス排出量取引試行事業」にも参加し学習を深めるとともに、日本



活動のみならず暮らしづくり」に取り組めます。

百貨店協会主催の学習会などにも積極的に協力させていただいています。今後とも各方面のご指導を仰ぎながら、大衆運動化していきたいと考えています。

グループとしての盲導犬育成事業支援

私たちはここ数年、さまざまな方々のご理解ご協力のもと、事業活動の基盤整備を行いながら、次なる成長へ向けての準備をしております。その過程の中でミレニアムリテイリンググループとして継続的に社会に貢献し続ける企業グループでありたい

と考え、微力ながら盲導犬育成事業をグループとして支援させていただくことにしました。

当社も昨年9月より全店舗での盲導犬育成支援募金をスタートし、今年度は6月に労働組合の支援も受け、労使で「西武ミレニアム基金」（社会貢献企業内基金）を設立しました。同時に社内募金制度「西武ワン! コイン倶楽部」を発足させ、社員が口数に応じて給与天引きで募金に参加する制度もあわせて導入。現在、7割を超える社員がこの制度に参加しています。

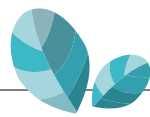
PDCAサイクルにもとづく永続的システムの維持定着

私たちは、環境マネジメントシステムを単に環境活動の管理システムとして活用するのではなく、一人ひとりの従業員が環境・社会的視点から、自らの行動を継続的に見直し改善するための仕組みとして位置付けたいと考えます。環境方針に沿った活動を継続的にを行い、コンプライアンス（法令順守）を前提にリスクマネジメントを徹底することにより、従業員の社会的責任意識は着実に高まってきました。

まさにこれからは「環境経営」の時代といわれています。私たちはISO14001認証取得企業として、決して受身になることなく、能動的・主体的な「環境経営」に取り組むたいと考えます。

西武百貨店は「環境にやさしい、そして人にやさしい百貨店」として環境保全活動と社会貢献活動に全社で取り組んでまいります。

今後とも皆さまの一層のご指導・ご支援をお願い申し上げます。



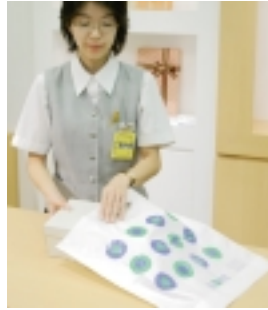
中期環境ビジョン

西武百貨店は今後の当社の事業戦略を踏まえつつ、ISO14001の2004年版改訂を受け、本年度、新たな中期計画の策定に取り組んでいます。その中期計画の基本的な考え方を、「中期環境ビジョン」としてご紹介します。

中期環境ビジョンの基本的考え方

中期ビジョンの策定に当たっては、現「環境方針」を前提としながら「複合商業施設化」へ向けた当社の事業戦略とISO14001[2004年版]規格改訂のポイントを考慮。同時に、日々消費者の皆さまと接点を持つ小売業としての事業特性を踏まえて設定しました。

持続可能な社会を目指し「お客さまとのコミュニケーション」を強化。環境にやさしいライフスタイルの提案をいたします。



循環型社会では、企業は環境保全と経済活動を両立する必要があります。エコ包装やゴミの分別・リサイクルなど、お客さまのご理解とご協力をいただきながら、持続可能な社会をめざします。

京都議定書発効を踏まえ「地球温暖化対策」への取り組みを重視します。

2005年2月16日、京都議定書が発効しました。政府の国民運動「チーム・マイナス6%」にも日本百貨店協会の一員として積極的に参加するとともに、「地球温暖化」対策への自主的取り組み基準の設定などを重点目標として、全社で取り組みを強化します。



「複合商業施設」へ向け、リテイル領域とあわせてテナント領域での環境活動/教育の強化を図ります。

「複合商業施設」を運営・管理する上でリテイル領域とあわせてテナント領域での環境オペレーションが不可欠です。西武百貨店では入店時研修やテナント店長会などを通じて、テナント各社と環境教育や環境改善施策に取り組んでいます。



2005年度 環境活動目標

2005年度からの環境活動目標は「お客さまとのコミュニケーション」「地域とのコミュニケーション」に、より重点を置いた目標設定とし、日々お客さまと接し、地域とともに成長し続ける小売業としての役割を明確化した活動内容として、4つの柱と9つの取り組みテーマを設定しました。

お客さまとのコミュニケーションの強化

小売業としての事業活動を通してお客さまとともに環境保全活動に努めます。

社会・地域とのコミュニケーションの強化

地域産業である百貨店として、地域の皆さまとともに社会貢献活動に努めます。

環境影響の改善と環境保全活動の推進

お客さまやお取引先のご協力も得ながら、日々の活動の中で環境保全に努めます。

コンプライアンスとリスクマネジメント

コンプライアンス(順法)とリスクマネジメント(危機管理)を徹底し、健全で信頼される企業活動を実践します。



池袋本店の壁面緑化「垂直の森」

環境・社会貢献活動の重点取り組み項目		具体的プログラム	2005年度目標		
お客さまとのコミュニケーションの強化	環境商品の選定と提案	環境商品の選定とグリーンアテンションカードなどでの商品の訴求・提案	西武百貨店環境商品選定	10品目新規選定	
	エコ包装の推進	エコ包装の推進(エコ包装おためトークの徹底)	環境商材売上	40億円(法人外商部)	
	環境イベントの展開・強化	環境イベント・セミナーの開催	エコバッグ売上	7,198千円	
社会・地域とのコミュニケーションの強化	地域との共生	店舗外周清掃	包装紙・手提袋	前年維持	
	盲導犬育成支援活動	地域コミュニケーション	年1回以上開催(2006年度より)		
		盲導犬育成支援募金	盲導犬ふれあいキャンペーンの開催	月1回以上実施	
環境影響の改善と環境保全活動の推進	「地球温暖化」対策	電力使用量の削減	電力使用量原単位	前年比1%削減	
		温室効果ガス排出量の把握と排出抑制に向けたプログラムの策定			
		低公害車の利用拡大(社用車)	低公害車率	93%	
	「循環型社会」の推進	納品代行システムの利用拡大	納品車両の削減		
		廃棄物の削減	実廃棄量		前年維持
		リサイクルの向上	リサイクル率		前年維持
「省資源」の推進	紙類使用量の削減	コピー用紙		前年維持	
	水資源使用量の削減	水道使用量原単位		前年比1%削減	
	フロン管理	・故障時、改装時に特定フロン使用機器を入替 ・業務用冷凍冷蔵機器の日常温度管理を徹底			
コンプライアンスとリスクマネジメント	順法とリスクマネジメントの強化	PCB管理	・保管、管理の徹底 ・行政処理計画にもとづき適正処理を実施 (PCB廃棄物保管店舗:池袋本店、渋谷店、札幌店、静岡店、沼津店)		
		薬品管理	・保管、取扱手順の順守 ・安全教育の実施(業務委託先を含む)		
		テナント管理(環境教育)	・テナント従業員への環境教育・指導の徹底 ・新規出店テナントの環境対応状況点検		

西武百貨店の事業活動と環境保全活動

百貨店の営業活動では、資源やエネルギーの消費とともに、ゴミや温室効果ガスなどの排出が伴います。私たちは、こうした環境への負荷を減らすために、さまざまな場面で環境保全活動に取り組んでいます。

INPUT 投入

商品	電気	268,101[MWh] 2,635,432,397[MJ]*1
包材	ガス	5,993,710[m ³] 248,298,612[MJ]*1
梱包材	重油	911[kℓ] 35,634,254[MJ]*1
水	熱供給	77,094,156[MJ]
コピー用紙	ガソリン	358[kℓ]*2 12,403,754[MJ]*1
用度品		

電力使用量の削減

- 2up3down運動...従業員は上りは2階分、下りは3階分まで階段を利用。
- こまめな消灯
- 外気冷房システム

車両による環境負荷低減

- 納品代行システム...納品商品を納品代行会社の倉庫に一括集荷し、納品便を効率化して店舗への出入り車両を抑制。
- 営業時間外納品...夜間や早朝の納品で、交通渋滞による大気汚染・騒音発生を抑制。

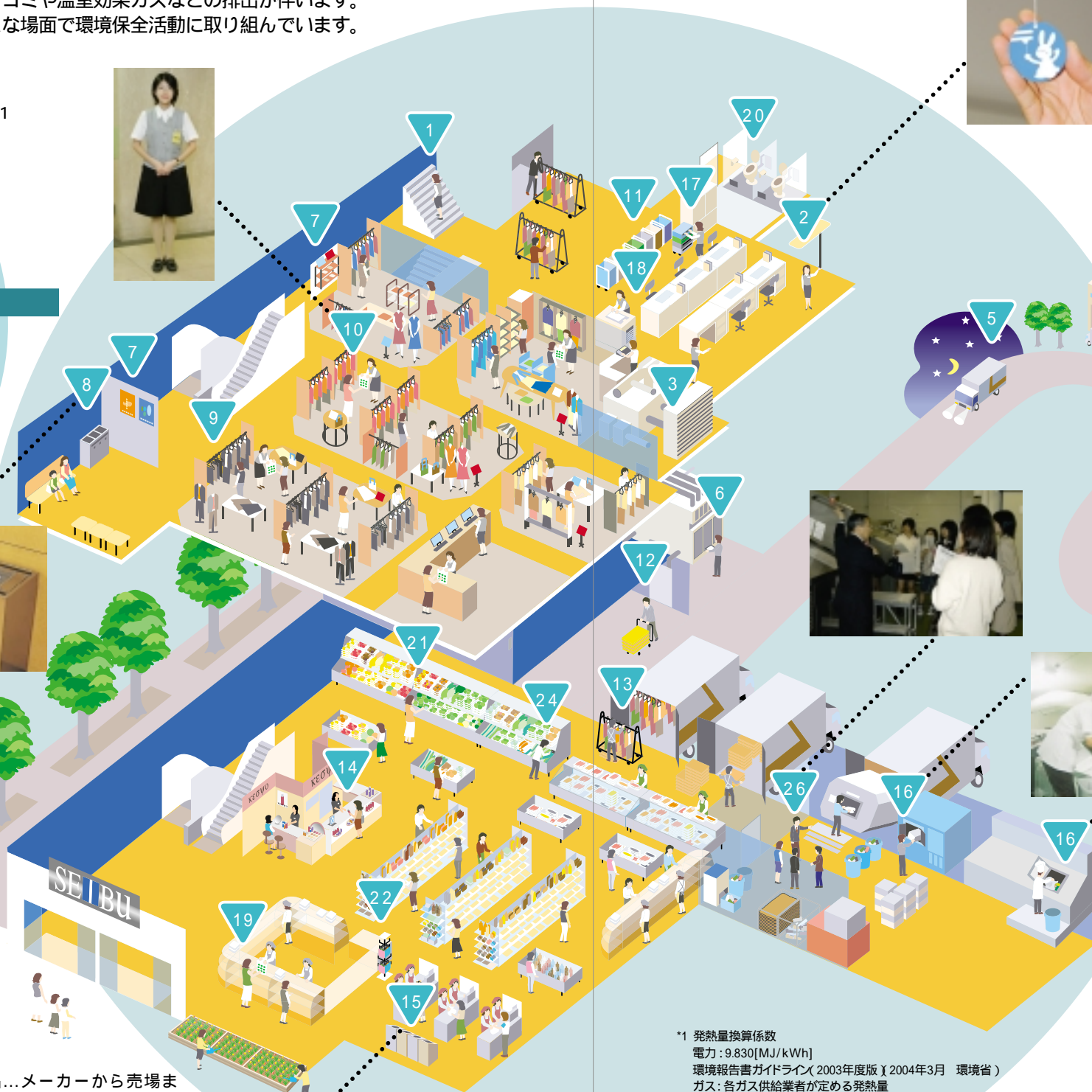
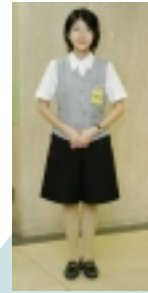
重油ボイラーの適正管理

- ボイラーのチェック...使用基準を明確化し操作者の定期訓練を実施。

廃棄物の削減とリサイクルの向上

- 再生資源を使用した売場ツール...プライスカード入れやポスターなど。
- お客さま用分別ごみ箱
- 百貨店統一ハンガー
- エコ素材の制服...社員バッジ、社員証、女性社員の制服の素材に再生PETを使用。
- 社員用分別ごみ箱
- リターナブルコンテナ納品...納品後は折りたたんでメーカーへ。繰り返し使用してダンボールを減らす。

- ハンガー納品...メーカーから売場までハンガーに吊りして輸送。ダンボールやテープを使いません。
- 化粧びんのリサイクル...資生堂と協力。店頭にお持ちいただいた化粧びんは、ガラスびんの原料に再利用。
- 容器回収...食品トレー、ペットボトル、牛乳パックなどの回収ボックス設置(一部店舗)。
- エコステーション...店舗で発生したごみを分別・保管し、各種リサイクル機器で中間処理も行う施設(池袋本店、東戸塚店、岡崎店、本金西武)。



OUTPUT 排出

容器包装	917[t]*3
CO ₂	122,547[t]*4
排水	2,096,273[m ³]
廃棄物	9,642[t]*5

資源リサイクル

ダンボール・発泡スチロールなど再資源化.....	8,659[t]
生ゴミのコンポスト化.....	574[t]

紙類使用量の削減

- リサイクルボックス...片面使用済みのコピー用紙や新聞・雑誌などを分別してリサイクル。
- コピー使用量の管理...両面コピーを原則とし、部署ごとに枚数も制限。用紙は古紙混入率70%。
- エコ包装...お客さまのご希望をうかがいながらエコ包装をすすめ、不要な包装紙や紙製手提袋の使用を控える。

水資源使用量の削減

- 洗面所の節水

環境に配慮した商品提案の推進

- (11~12ページ参照)
- 資源循環野菜の販売
 - 環境に配慮した商品の開発・販売
 - 法人外商部の環境ビジネス

順法とリスクマネジメントの強化

- フロン使用機器のチェック...冷凍冷蔵ショーケースの温度管理を徹底、フロン漏洩防止と安全稼働に努める。

地域社会との共生

- 外周清掃...社員たちの手で定期的に周辺地域の清掃実施。
- 店内エコ見学会...地域の方々が身近に学べる環境教育の場として、店内の環境商品や施設をご案内。

*1 発熱量換算係数
 電力: 9.830[MJ/kWh]
 環境報告書ガイドライン(2003年度版)(2004年3月 環境省)
 ガス: 各ガス供給業者が定める発熱量
 13A: 46.04655[MJ/Nm³] 6C: 20.93025[MJ/Nm³]
 重油: 39.1[MJ/ℓ] (A重油)
 エネルギー源別標準発熱量表の改訂について
 (2002年2月 資源エネルギー庁総合政策課)
 ガソリン: 34.6[MJ/ℓ]
 エネルギー源別標準発熱量表の改訂について
 (2002年2月 資源エネルギー庁総合政策課)
 *2 社用車のガソリン使用量
 *3 (財)日本容器包装リサイクル協会
 2005年度再商品化委託契約に係る容器包装使用量
 *4 CO₂排出量
 事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン
 (2003年7月 環境省地球環境局)
 *5 資源リサイクル分を除く実廃棄物総量

数値はすべて2004年度の年間合計値です。



環境にやさしい店舗づくりと店舗オペレーション

今年2月に「京都議定書」が発効し、CO₂をはじめとする温室効果ガスの国別削減目標の達成が義務づけられました。私たち西武百貨店でも外気冷房システムの導入など設備改善を進めるとともに、従業員一人ひとりが環境に配慮した行動をとることで環境負荷の軽減に努めています。



2005年6月19日実施の環境省提唱ライトダウンキャンペーン：池袋本店

従業員一人ひとりの“環境意識”の高まりと日々の行動で大きな成果。電気を大切に使いCO₂の排出を防いでいます

事務所や倉庫などの蛍光灯を個別スイッチに替え、使用時以外は消灯を徹底。バックヤードなどでは最低必要な場所のみ常灯し、その他の不要な蛍光灯は取り外すなど過剰照明をなくしています。さらにエレベーターの使用を控え、商品移動以外は階段を利用する「2up3down運動」実行。事務所、倉庫などで離席時の消灯を徹底。計画的な業務遂行による営業時間外送電の削減など、従業員一人ひとりの行動で電力使用量の低減に努めています。

また、設備面でも消費電力の少ない蛍光灯への切り替えを、空調では気温に応じて外気を取り込むことのできる外気冷房システムの導入などを進めています。



2005年8月10日実施の「横浜打ち水大作戦2005」：東戸塚店

「温室効果ガス」排出量削減へ向けて行政機関など関連団体と連携し、多面的な取り組みにより温暖化対策を推進しています

西武百貨店は本年2月の京都議定書の発効に先立ち、03年度より04年度にかけ環境省主催で行われた「温室効果ガス排出量取引試行事業」に小売業を代表して参加。池袋本店をモデルに排出量の算定基準や排出枠の仮想取引などの事例研究を行って、排出量取引に関するノウハウを蓄積しました。また、日本百貨店協会主催の研究セミナーでも温暖化対策への取り組み事例を報告し、各分野の方々との情報交換をしています。



2005年6月24日 日本百貨店協会主催の「地球温暖化防止対策研究セミナー」



2004年9月に「複合商業施設」オーロラシティとしてリニューアルした高槻店

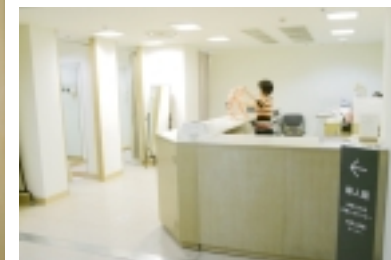
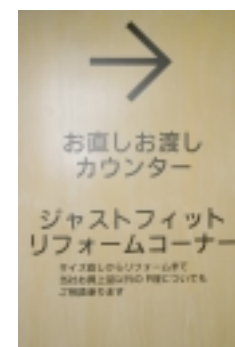


環境に配慮した店舗オペレーションを実現し環境にやさしいショッピングをお手伝いします

西武百貨店では、店舗のオペレーションでも環境に配慮した取り組みを行っています。

ゴミの削減に向けては、商品の納品時に折りたたみ式のリターンブルコンテナを使用、衣料品はハンガー納品の拡大でダンボールを削減。店内で発生した生ゴミは、生ゴミ処理機によるコンポスト（肥料）化を進めています。

販売オペレーションでも、お客さまのご協力のもとエコ包装の推進やエコロジーバッグの販売拡大に積極的に取り組んでいます。また、環境商品のご紹介とあわせ、ご購入いただいた商品を末永くご使用いただくために靴・バッグや宝飾などの修理コーナー、衣料品のリフォームコーナーなどを設け、環境にやさしいお買物をサポートしています。



テナントお取引先との協業体制のもと、環境にやさしい複合商業施設をめざします

より魅力的な商業施設をめざして、現在、自社（百貨店）が運営する売場だけでなく、大型専門店などのテナントを導入した複合商業施設化を進めています。

西武百貨店では、こうしたテナントお取引先と定期賃貸借契約を締結する際の規約に環境問題についての規定を設け、環境関連法規・条例、社内規程の順守はもとより、環境保全活動に関する教育への参加や従業員への周知徹底について確認しています。

また、月1回定例で行うテナント店長会での環境活動の情報交換や、毎月全従業員向けに配信している「環境ニュース」にもテナントお取引先のためのテーマを設け、“環境意識”の向上に努めています。

日常管理・点検のポイント事例（テナント店舗用）

- ・ 販売商品の容器包装表示（紙・プラ等）
- ・ ゴミの分別と減量
- ・ グリストラップの清掃
- ・ 冷凍冷蔵庫の温度管理
- ・ アレルギー表示
- ・ 分煙対応表示（主にレストラン）
- ・ 消灯の励行
- ・ 適正包装の推進
- ・ 空調設備・照明器具等の清掃
- ・ 家電リサイクルの案内表示など



環境にやさしい商品やライフスタイルを提案

日々お客さまと接点を持つ小売業として、独自の選定基準による「環境商品」をおすすめするほか、エコロジカルで快適な生活を実現するための商品や、ライフスタイル提案を行います。

「環境商品」の選定と品揃えに努め、店頭では「グリーンアテンションカード」でわかりやすくお客さまにご提案

西武百貨店では独自の「環境商品選定基準」を設定。第三者機関が選定基準の適合性を検査し、合格した商品のみを「環境商品」として認定、表示しています。

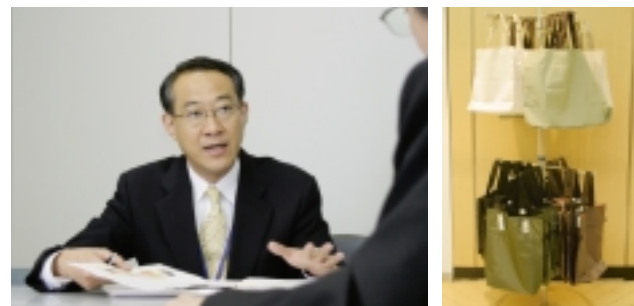
現在、「環境商品」はギフト商品・有機JAS認定商品を中心に124アイテムを選定（2005年7月末現在）。店頭では「グリーンアテンションカード」（西武百貨店のおすすめする環境に配慮した商品表示カード）を表示するとともに、その商品の選定理由を表記して、お客さまにご提案しています。

バイヤーのこだわりと挑戦！

～西武百貨店がおすすめする
オリジナル・エコロジーバッグ～

西武百貨店では2000年6月からハンドバッグ売場と食品売場で「西武オリジナル・エコロジーバッグ」を販売しています。このエコロジーバッグはペットボトルのリサイクルから生まれる再生ポリエステルを使用したもので、シンプルなデザインと機能性を重視し、カラーも豊富で、幅広いお客さまからご支持いただいています。また、多くのお客さまからのご要望を受け、2002年9月からは新たに「保冷バッグ」も導入しました。

これからも環境にやさしいライフスタイルのご提案を、お客さま視点で実行してまいります。



西武百貨店 / 環境商品選定基準

- 原材料や生産工程が低負荷であるもの
- 再生素材を使用しているもの
- 再生可能な商品であるもの
- 省資源・省エネ商品であるもの
- 環境保全を促進するもの
- 環境負荷に関する表示のあるもの
- 環境保全に積極的な企業により製造された商品であるもの



「グリーンアテンションカード」の表示例

「オーガニックコットンタオル」
信頼できる指定農場で栽培されたオーガニックコットンのみを原料として使用した、自然にやさしいタオル



「オーガニックコットンベビー服」
有機栽培された綿と、工場で削ぎ落とされた通常廃棄される綿毛を混紡して製造されたベビー服。原料製造段階と製品製造段階で環境配慮された商品

「風の谷のビール」
有機認定を受けたドイツのオーガニックモルト、ホップ、酵母を原料とした、静岡県の函南町で製造された地ビール

ファルカタ（南洋桐）を使用したギフトパッケージ

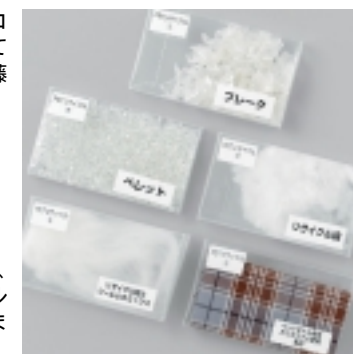


近隣農家のご協力を得て、循環型の仕組みを構築。安全でおいしい食材をご提供しています

西武百貨店では地域の廃棄物処理の負担を軽減するとともに、循環型社会をめざして、池袋本店をはじめ4店舗に、店内で発生した生ゴミをコンポスト（肥料）化するための「生ゴミ処理機」を導入。「生ゴミ処理機」で再生したコンポスト（肥料）を近隣農家にご提供し、その肥料で生産された農産物を再び店頭で販売する資源循環型システムを推進しています。この取り組みは、「安全でおいしい」とお客さまからも高い評価をいただいています。



生ゴミ処理機で再生したコンポスト（肥料）を使用して栽培されたさくらんぼ（佐藤錦）の販売：本金西武



ペットボトルから、フレーク、ペレット、綿になり、ウールとミックスされてさまざまな布地に再生されます

法人や団体のお客さまのニーズにお応えし、環境ビジネスにも積極的に取り組んでいます

西武百貨店法人外商部では、リサイクル商品の開発や環境関連商品の販売、さらに資源回収システムの構築まで、企業や団体のお客さまが直面する環境課題にトータルに対応し、コンサルティングを含む解決策をご提案しています。

法人外商部の環境ビジネス（例）

- リサイクル商品の開発・販売
- 生分解性プラスチック商品の開発・販売
- 非木材紙商品の開発・販売
- 省エネ・省資源商品の開発・販売
- 塩ビ代替商品の開発・販売
- 回収システムの構築 / コンサルティング

環境に配慮した商品の開発・販売

【包材・資材】

法人外商部ではギフトパッケージなどの包材・資材を扱っています。環境負荷の少ない「ファルカタ（南洋桐）」は従来の木材に比べコストも安く、環境の視点からもおすすめできる商材です。

【ユニフォーム】

ワーキングユニフォームの分野で、再生ポリエステルを使ったユニフォームが拡大しています。特に飲料会社や官公庁での採用が増加しています。

*ファルカタは木材ではなく、マメ科の植物です。成長が早くショートサイクルで活用でき、森林伐採による環境破壊を起しません。

環境マネジメントの仕組みと運用状況

西武百貨店は着実に持続的な環境活動を実践するために、国際規格ISO14001にもとづいた環境マネジメントシステムを導入しています。

西武百貨店の環境マネジメントシステム

国際規格ISO14001にもとづき、PLAN(目標・計画) DO(実施と運用) CHECK(実施結果の監視と測定) ACT(是正処置、経営層による見直し)のサイクル(略称・PDCAサイクル)に沿った、持続的・発展的な環境マネジメントを行っています。

ISO14001登録状況

登録番号 JQA-EM0401
 審査機関 財団法人日本品質保証機構
 登録範囲 株式会社西武百貨店 全店・全事業所
 株式会社ミレニアムリテイリング
 商品本部・テナント本部・総務本部
 登録日 1999年4月9日
 次期更新 2008年4月9日



JQA-EM0401

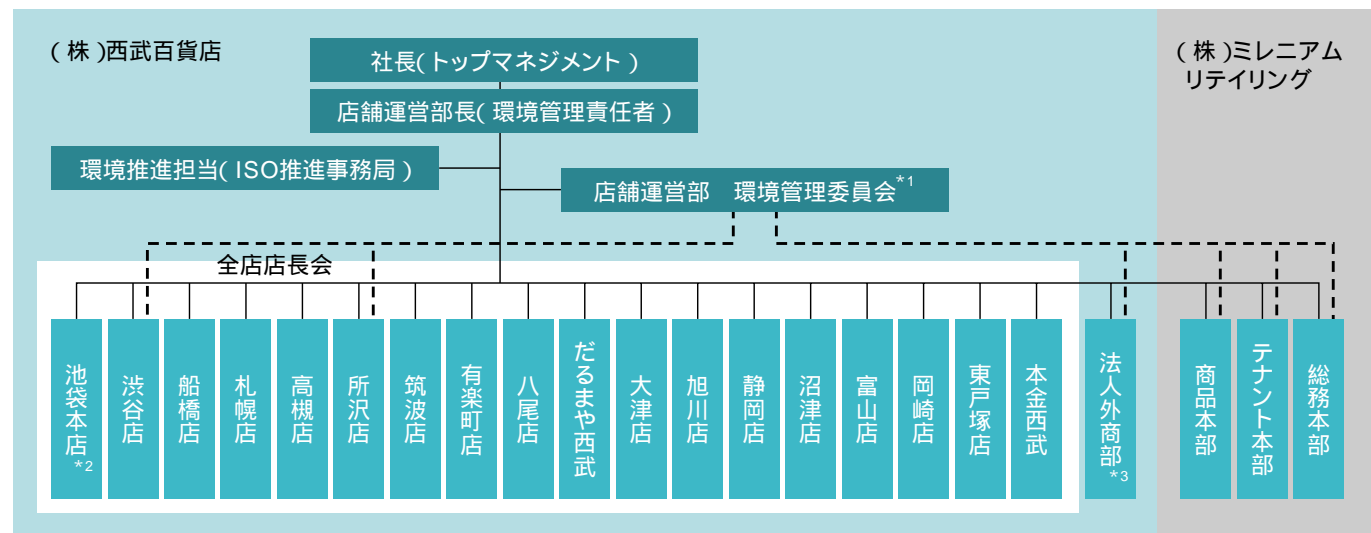


環境マネジメントのための組織体制

環境マネジメントシステムは、トップマネジメントである社長のもと、店舗運営部長を環境管理責任者とし、西武百貨店18店舗、2事業所(店舗運営部、法人外商部)ならびに西武百貨店の事業活動に不可欠な部門として2004年6月に拡大審査を受審しISO14001の登録範囲に統合したミレニアムリテイリング3部門(商品本部、テナント本部、総務本部)の全23サイトで構成されています。

各サイトがそれぞれ環境管理委員会を組織し、店長や部門長を委員長としてPDCAサイクルにもとづく活動を行い、環境管理責任者が委員長を務める店舗運営部環境管理委員会が各サイトの活動を統括しています。各サイトの活動を統括するためには幅広い情報と審議が必要となるため、店舗運営部環境管理委員会は代表店舗2店・法人外商部・ミレニアムリテイリング3部門からも委員が任命されています。また、店舗サイト間の相互コミュニケーションは全店店長会を通じて行われています。

*1 2004年7月 店舗運営部・管理部環境管理委員会を構成していた管理部がミレニアムリテイリング財務経理本部へ機能統合
 *2 2005年9月 池袋本店に店舗名称を変更
 *3 2005年6月 関東法人外商部・関西法人外商部がそれぞれ西武百貨店法人外商部・そごう法人外商部に組織再編



「環境マネジメントシステム」にもとづく1年間のおもな活動

	PLAN (計画)	DO (実施・運用)	CHECK (監視・測定)	ACT (是正・経営層による見直し)
3月	環境目的・目標の策定 (中期3カ年・今年度)	環境マネジメント体制の見直しと環境管理委員会上期メンバー任命 環境マネジメントシステム文書の定期見直し	第4四半期(12~2月)および年間目標達成状況報告	全社環境マネジメントシステムの見直し(環境方針、環境目的・目標など)
4月		自主基準にもとづく排水の状態点検	法規制等遵守状況の点検 <年2回>	
5月		廃棄物処理ルート実査 特定業務従事者への訓練<年2回> (PCB、フロン、廃棄物、自家発電機、ボイラーなど) エネルギー管理指定工場中長期計画書・実績報告書提出		
6月		PCB廃棄物保管状況等の届出 <池袋本店、渋谷店、札幌店、静岡店、沼津店> 緊急事態発生時の対応手順テスト	第1四半期(3~5月)目標達成状況報告	
7月			サイト別自主監査 <年2回>	
8月		煤煙測定		
9月	環境目的・目標、 マネジメントプログラムの 見直し<半年>	環境マネジメント体制の見直しと環境管理委員会下期メンバー任命	第2四半期(6~8月)目標達成状況報告	
10月		法定資格保有者の確認 (電気主任技術者、建築物環境衛生管理技術者など) 特定業務従事者への訓練<年2回> (PCB、フロン、廃棄物、自家発電機、ボイラーなど)	法規制等遵守状況の点検 <年2回>	
11月	環境側面の定期見直し	環境マネジメントシステム文書の最新版配布・管理状況の確認	サイト別自主監査<年2回> 内部監査員研修	
12月		層別環境教育(eラーニング、全社員環境アンケート) (~1月)	第3四半期(9~11月)目標達成状況報告 内部監査(~1月)	
1月			ISO14001審査	
2月		煤煙測定		環境マネジメントシステムの見直し(各サイト)

月ごとに定期実施

PLAN 法規制・条例等の制定、改正確認
 DO 環境管理委員会の開催、活動状況の報告
 DO 入店時環境教育、環境アワー教育
 DO 環境目標達成状況の確認

必要な場合に随時実施

PLAN 環境目的・目標の見直し
 PLAN 環境側面の見直し
 DO 社外・社内の環境情報の通知と対応
 DO 環境教育・法定資格保有者の確認
 CHECK 発生した不適合の是正および予防処置

緊急事態の想定と対策

地震など万一の災害や事故に備え、重油・ガス・PCB・フロンの漏洩や煤煙の多量排出などの緊急事態を想定して対応手順書を作成しています。緊急時に使用する備品や警報装置などの日常点検に加え、年1回これら緊急事態の対応手順を実際に行って、有効性を確認しています。また、設備の更新や備品の改良、担当者のスキルアップなどによるリスク低減の可能性についての検討を行い、対応手順の変更についても随時適切な判断を行っています。



環境教育による環境意識の向上

環境マネジメントを支える従業員一人ひとりの環境意識を高めるため定期的な環境教育や研修、現場での実践を繰り返し行っています。



新規入店者研修

西武百貨店では、新規に入店するパートナー社員（契約社員）および、お取引先からの派遣社員を含むすべての従業員を対象に、入店時に「販売基本ルール」にもとづいた環境方針や環境への取り組みについての研修を実施しています。その中で「私の環境宣言」として、一人ひとりが日々の業務の中で重点的に取り組む環境活動を設定し、主体的に取り組んでいくよう教育がなされています。

環境eラーニング

2002年度から本社員を対象にインターネットを使った環境教育「環境eラーニング」を導入しています。これは同じ教育レベルで学習でき、学習履歴が残り、また空いている時間に学習できるといった利点があり、各店舗で効率よく学習に利用されています。2003年度にはパートナー社員・派遣社員・業務委託先社員にも「簡易版eラーニング」として拡大し、毎年1回実施しています。

内部監査員養成研修

内部監査員新規認定のため、年に1回養成研修を開催、修了研修に合格すると資格を取得することができます。2004年度は新規に5名の内部監査員が認定されました。内部監査員は、7月と11月に自店の活動をチェックする「環境定期点検」と、12月に店舗間で相互に監査を行う「内部監査」の計3回の点検を行います。

内部監査員スキルアップ研修

内部監査員の資格取得者を対象に、年に1回スキルアップ研修を開催し、正しい内部監査を行うための監査技術の維持・向上に努めています。一度資格を取得しても、この研修を受講しなければ、その年度の内部監査を行うことはできません。2004年度は9名の主任監査員と新任5名を含む36名が内部監査員に任命され、監査を実施しました。

専門教育・訓練

環境に著しい影響を与える可能性がある業務、著しい環境影響の原因となりうる業務を担当する従業員に、専門教育を実施しています。対象者は、PCB・フロンなど環境有害物質を扱う従業員、廃棄物の処理を行う従業員、自家発電設備およびボイラーの運転を行う従業員で、年に2回教育・訓練の受講を義務付けています。

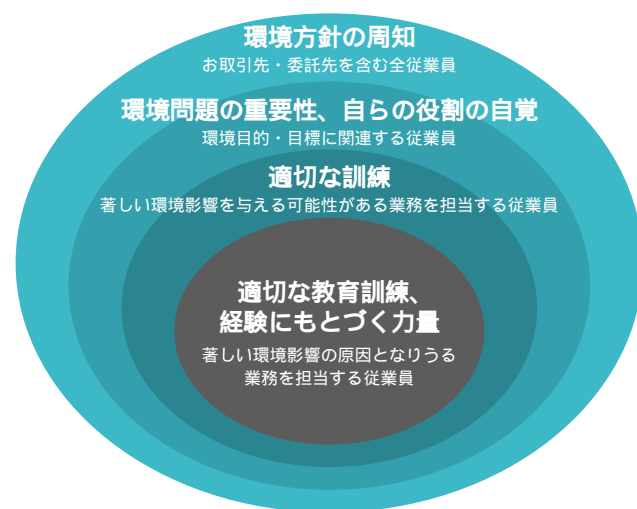
定例教育

店舗ごとに毎週1回「環境デー」を設け、月ごとに設定された「環境テーマ」に基づいて重点活動の教育・徹底を行っています。また「環境ニュース」を発行し、各店舗の環境トピックスや社外の環境活動などについて紹介し、情報の共有化を図っています。

社内ホームページを利用した情報の共有化

店舗から寄せられた環境・社会貢献活動は、写真とともに活動内容を社内ホームページに掲載して紹介しています。社内活動の情報を共有化することにより、各店舗での活動の活発化を促進しています。

従業員に対する環境教育の考え方



全社員アンケートから

2004年12月1日～2005年1月31日に実施

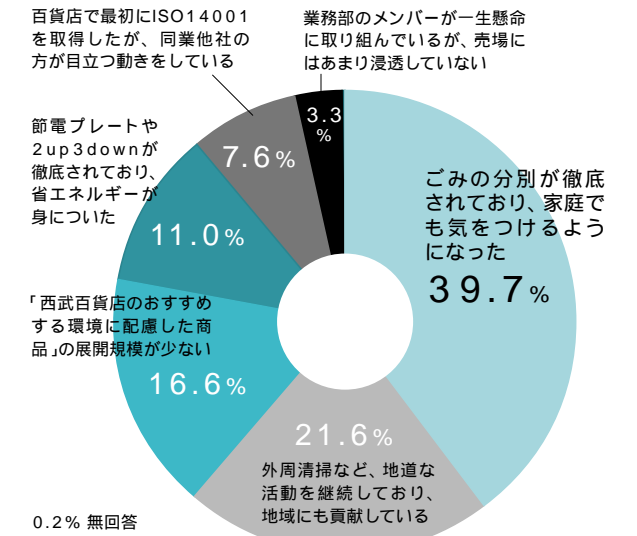
西武百貨店の環境・社会貢献活動についてどう思いますか

ISO14001取得後 社員の環境意識が高まった事項

1. ごみの分別が徹底されており、家庭でも気をつけるようになった。(39.7%)
2. 外周清掃など、地道な活動を継続しており、地域にも貢献している。(21.6%)
3. 節電プレートや2up3downが徹底されており、省エネルギーが身についた。(11.0%)

環境の取り組みに課題があると思われる事項

1. 「西武百貨店のおすすめる環境に配慮した商品」の展開規模が少ない。(16.6%)
2. 百貨店で最初にISO14001を取得したが、同業他社の方が目立つ動きをしている。(7.6%)
3. 業務部のメンバーが一生懸命に取り組んでいるが、売場にはあまり浸透していない。(3.3%)



これらの課題については、今後の環境目標の中で対応を検討してまいります。

社員たちの声

お客さまに当社の環境活動を認知していただくには、お客さまの目に止めていただくことが一番です。それには私たちが広告媒体になればよいと思います。個々人がバッジなどを身に付けて環境・社会貢献活動を行い、接客などを通じて良い意味でお客さまに理解をいただきながら、それが地域の運動になれば、やりがい生まれると思います。

(旭川店：婦人雑貨課)

節電をはじめとした省エネルギーが身につく、家庭でもゴミの分別を正確に行うようになるなど、色々な面で意識が向上しました。社員一人ひとりに自覚が芽ばえ、成果が上がっていると思います。

(商品本部)

ゴミの分別、節水・節電、コピー用紙再利用などは徹底されているが、地域社会への貢献といった点で

はまだだだと思えます。一個人として、もっと真剣に取り組めば地球環境に対する活動を続け、周囲を巻き込んでいけたらと思います。

(池袋店：販売部)

エコバッグは他社に比べてデザインが地味で、会社のロゴマークもない。他社のエコバッグはデザインに優れ、そのバッグを持つことがステータスになっているものもある。西武のエコバッグも、もっとおしゃれで、持つだけでエコロジー活動の広告塔になるようなものにすればよいと思います。

(岡崎店：販売部)

環境商品に関するパンフレットを用意したり、環境商品コーナーを設けるなど、環境問題に関心のある消費者がもっと購入しやすい環境を整える必要があると思います。

(店舗運営部)



店舗の地域活動報告

各店舗が地元の方々と取り組む地域活動をご紹介します。

清掃やパトロールで、地域・社会に貢献

渋谷店

東京都渋谷区

「渋谷センター商店街・環境浄化パトロール」実施

渋谷センター商店街、大型店、渋谷区、警察が一体となった環境浄化パトロールを実施中です。毎月3回、昼・夕刻・夜の時間帯に2時間ほど巡回し、違法な路上看板、キャッチセールス、路上アンケートなどを排除。渋谷店では03年の開始時からパトロールに参加しており、04年度は43回実施しました。2年にわたる継続的な活動の結果、渋谷センター街の路上看板・露天販売はほぼなくなりました。今後も地元の方々との協力し、安全・安心な商店街を目指して活動を続けていきます。



筑波店

茨城県つくば市

「アルミ缶・プルトップを回収して車椅子を贈ろう！」運動実施

2005年3月のリニューアルオープンを機に、地域の皆さまへの感謝の気持ちをカタチにすべく、アルミ缶回収運動を始めました。社員が毎日、店頭や社員休憩室などで回収したアルミ缶をつぶして集積、それを市の業者に回収してもらい、車椅子に交換し、公共施設などに車椅子を寄贈しようという運動です。この活動は地元福祉団体の広報誌にも紹介され、お客さまのご協力も得られるようになり(下:写真)活動の輪が広がっています。アルミ缶約400kgを回収して、ようやく車椅子1台分。毎日コツコツと回収し、2005年9月には、つくば市社会福祉協議会へ3台寄贈いたします。



有楽町店

東京都千代田区

「生活環境向上パトロール」実施

毎月2回、地元行政、警察と合同で「生活環境向上パトロール」を実施しています。当店の有楽町マリオンビル周辺は「環境美化・浄化推進モデル地区」となっています。この地区での路上看板などの設置禁止、「路上禁煙地区」内での喫煙の禁止を広報しながら、路上の吸い殻の回収やビラはがしなどを参加者全員で実施し、地区内の安全で快適な生活環境の向上に努めています。



旭川店

北海道旭川市

「環境にやさしい店」に認定

2003年9月からスタートしている「ピカピカ大作戦」。店舗の外壁・外周からはじまり、店内清掃はもちろん休憩室や更衣ロッカーなどの社員用施設まで「ピカピカ」に清掃し、全社員一丸となって気持ちよく働ける職場づくりを目指しています。

また、「環境に配慮した商品」の販売や「簡易包装」のおすすめ、「商品の修理受付」などが認められ、2005年2月に百貨店で初めて旭川市の「環境にやさしい店」に登録されました。この「環境にやさしい店」は、環境にやさしい商品の積極的な販売、ごみの減量、リサイクルに率先して取り組む店を旭川市が認定し、紹介するものです。今後もますます「環境にやさしい店」づくりに励んでいきます。



だるまや西武

福井県福井市

「足羽川清掃活動」実施

毎年3月に行われる地元足羽川の合同清掃に参加しています。昨年9月26日には、福井豪雨の影響でごみが集まり景観が損なわれていた足羽川河川敷の清掃活動が行われました。この日は地元団体の方々を中心に約1300名が参加。だるまや西武のメンバーも、福井市観光協会のメンバーとして参加しました。



静岡店

静岡県静岡市

静岡店35周年「紺屋町合同清掃」実施

地元紺屋町商店街と合同で、毎月第2土曜日に清掃を行っていますが、今年2005年6月11日には静岡店開店35周年を記念して、いつもお世話になっている紺屋町商店街の清掃をさらに拡大。店舗周辺のみならず地下道や交差点など、紺屋町全域にわたって清掃活動を行いました。今後も地域の皆さまへの感謝の気持ちを込めて、清掃活動を継続していきます。



本金西武

秋田県秋田市

資源循環システムで実りある成果を

池袋本店に続き2002年に生ゴミ処理機を導入。店内で生じる生ゴミをコンポスト(堆肥)に再生し、それを肥料にした農産物を店頭で販売する「資源循環システム」が実現しました。2004年6月には、契約農家の皆さんの手で愛情たっぷりに育てられたさくらんぼが、9月にはりんごが店頭で販売され大好評でした。



沼津店

静岡県沼津市

耐震工事を終了し、全社員がさらなる地域貢献活動に取り組みます

毎日、外周清掃を実施していますが、2005年8月1日には社員97名が参加して「市内中心部清掃大作戦」を執行。前日まで沼津夏祭りが開かれていたため、中心部にはタバコの吸い殻や割りばし、空き缶などが散乱していました。これをエリアごとに6班に分かれて入念に拾い集めました。また、8月5日には社員の手で駅前ロータリーの花壇を整備・植栽。今後も労使一体の活動として、社員ボランティアと社員による「花いっぱい募金」を活用して花壇の維持に取り組んでいく予定です。



富山店

富山県富山市

「分別強化！ゴミ削減運動」実施中

2004年10月よりゴミの分別強化に着手しました。ほとんどの売場にはゴミ箱がひとつしかないため、社員の声によりビニール用のゴミ箱を手作りして設置。今では店内の各レジカウンターで分別を行っています。この活動のおかげでゴミの分別に対する社員の意識がさらに高まっただけでなく、再利用紙の分別リサイクル量もアップ。今後もゴミの削減に向けた取り組みを、いっそう強化していきます。





環境イベント開催・参加

池袋本店

東京都豊島区

「くまちゃんの森を守ろう」 環境シンポジウム開催

1998年から「子どもと育てる未来の森 くまちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン」を継続して行っています。これは子どもたちにどんぐりの実を配布して苗を育ててもらうもので、育てられた苗木は、自然保護と回復のための活動をしている作家たちのボランティア団体に送られ、どんぐりの森をつくるための植林に役立てられます。

その活動の一環として2005年3月30日、NPO「CCC自然・文化創造工場」からの働きかけで環境シンポジウムを開催。特別パネリストとして脚本家の倉本聰氏を迎え、「森で学ぶ、大自然の恵みと循環」をテーマに、文部科学省、環境省、林野庁の担当者の方々と、環境教育について有意義な意見交換が行われました。



所沢店

埼玉県所沢市

「クールビズ・ファッションコンテスト」 開催

6月の環境月間にあわせて、2005年6月25日、環境省の「地球温暖化防止のため、28度の室温でも涼しく効率的に働くことができる軽装」である「クールビズ」ファッションショーを開催しました。どのような着方をしたらいいかわからない、というお客様の声にお応えして、当日は男性社員20名が「クールビズ・スタイル」を実践・提案。お集まりくださったお客さまに審査員になっていただいて、人気コンテストも行いました。



八尾店

大阪府八尾市

「地球温暖化防止イベント」開催

6月の環境月間にあわせて、2005年6月1日～7日まで八尾市環境部の働きかけで「地球温暖化防止イベント」を実施しました。ここでは地球温暖化防止をテーマとした環境問題のパネル展や環境クイズなどのイベントを開催。地域のお客さまとともに地球温暖化問題について考え、取り組んでいくきっかけとなりました。



岡崎店

愛知県岡崎市

「みどりの日・育樹祭」参加

岡崎店が核店舗となっている「イオン岡崎ショッピングセンター」では、みどりに囲まれたショッピングセンターづくりをめざし、開店時に5万本の苗木を植樹して、その後も毎年追肥作業を行っています。みどりの日の2005年4月29日、「イオン岡崎ショッピングセンター」が毎年実施している育樹祭に当店も参加。今年も地域住民や一般公募の方、小中学生など約300名のお客さまと、敷地内の雑草駆除や苗木の追肥作業を行いました。また今年も、ISO認証取得企業としての環境・社会貢献活動報告と、中部盲導犬協会のパネル展も同時開催しました。



ともに学ぶエコツアー・セミナー

船橋店

千葉県船橋市

「デパートの裏側を見てみよう - - 探検ツアー」を実施

夏休み企画として2005年8月3日、ふだんは見られない「デパートの裏側を見てみよう - 探検ツアー」を開催。地元小学生40名が参加して、食品・鮮魚売場の裏側や電話交換や店内放送の仕事風景、店舗の安全管理をつかさどっている防災センターなどを見学しました。参加したお子さんからは、華やかなお店の裏側でこんなに多くの人が働いているのにびっくりしたという意見や、見えないところにも省エネの工夫をしているところが勉強になった、との声を頂戴しました。今後も地元小中学校のご要望にお応えし、環境や社会勉強のお手伝いをしていきます。



札幌店

北海道札幌市

「環境報告書展」参加

市内のISO14001取得企業を中心に設立された「札幌EMS(環境マネジメントシステム)ネットワーク」に所属し、地域住民や行政、大学に対して、出前講座などを行って、企業が直面する環境問題とその取り組みについて紹介しています。また、2005年3月28日～4月1日には「環境報告書展示会」に参加。市内のISO14001取得企業32社とともに環境報告書を展示し、環境への取り組みを紹介しました。今後も幅広いネットワークを生かし、地域社会における循環型社会の構築をめざして活動していきます。



高槻店

大阪府高槻市

「学習講座」開催

2005年8月11日、高槻市と市民が協力して推進している「地元芥川をアユが住めるようなきれいな川にしよう」という運動について高槻市職員のお話をうかがい、地域・行政の方々と一体となって水環境保全について考えました。



大津店

滋賀県大津市

「滋賀県環境学習フェア」参加

2004年11月26日、滋賀県主催の環境学習フェアに参加しました。フェアには小・中学校の児童生徒をはじめ、NPOや企業などから約350名が参加。フェアにあわせて募集した「わたしの環境宣言」に大津店も参加し、お客さまや地域社会とともに取り組む環境活動を宣言しました。



東戸塚店

神奈川県横浜市

「エコツアー & 夏休みフェスティバル」 開催

東戸塚店は最もさかんに「エコツアー」を行っており、地元小・中学生を対象に環境商品の販売風景や生ゴミ処理機などの省資源・省エネ施設の見学ツアーを数多く実施しています。また、夏休み期間には「ソーラーカー & 電気自動車展」や「ヨコハマ環境展」といったエコ企画・夏休みフェスティバルを開催しました。





環境にやさしい、 そして人にやさしい百貨店として

西武百貨店はミレニアムリテイリンググループの一員として、
㈱そごうとともに盲導犬育成支援活動に取り組んでいます。

盲導犬育成事業支援活動を推進

西武百貨店では「環境にやさしい、そして人にやさしい百貨店」として、盲導犬育成事業支援活動を推進しています。活動の一環として、2004年9月より全店に盲導犬募金箱を設置し、2004年9月～2005年2月にお客さまからお預かりした募金額計4,505,546円を、全国7カ所の盲導犬育成支援団体に近隣店舗の店長が目録持参の上、寄付しました。この活動はお客さまからも認知され、多くの皆さまのご理解とご協力のもと、さらに積極的に取り組んでまいります。



「西武ワン！コイン倶楽部」の設立

西武百貨店では2005年6月より、会社と組合（ミレニアムリテイリンググループ労働組合）がそれぞれ拠出して「西武ミレニアム基金」を設立、同時に従業員による募金制度「西武ワン！コイン倶楽部」が発足しました。

これは従業員が任意に選択した募金口数を毎月の給与から天引きするシステムで、集まった募金は「西武ミレニアム基金」に保管され、毎年度末に基金からの助成金として全国の盲導犬育成団体に寄付します。初年度の募集では全社員（パート型契約社員含む）の70%が参加。社員一人ひとりがこの活動を理解し、全社一体となって盲導犬育成事業を支援しています。

なお、この制度は㈱そごうも2003年度より導入し、お客さまのご協力も得ながら、ミレニアムリテイリンググループ全体で今後さらに盲導犬育成支援活動を強化してまいります。



「盲導犬ふれあいキャンペーン」で 盲導犬への理解促進

西武百貨店では視覚障害者および盲導犬に対する理解促進を図るため、盲導犬育成団体の協力を得て、2004年9月より「盲導犬ふれあいキャンペーン」を開催しています。このキャンペーンでは、「盲導犬訓練のデモンストレーション」や「アイマスクを着用しての歩行体験」「盲導犬とのふれあいタイム」などを設け、盲導犬をより身近に感じていただくとともに、盲導犬育成事業への協力、理解の促進に努めています。毎回、ご家族連れを含め多くのお客さまからご支援の声を頂戴しています。

「従業員教育」も徹底

西武百貨店では「身体障害者補助犬法」施行にともない、店舗の窓口となる社員を対象に盲導犬育成団体での研修を実施し、視覚障害者ならびに盲導犬などの補助犬の店舗受け入れ時の基礎知識について学びました。また、全従業員用に独自の「補助犬ハンドブック」を作成し、一人ひとりが補助犬について理解を深め、店舗で適切な対応ができるよう教育を徹底しています。

ノーマライゼーションへの挑戦

障害の有無や年齢にかかわらず、どなたにも使いやすい設備・サービスを次々に充実させています。

全店舗でコンシェルジュが、 お客さまのご要望に的確に お応えします

店内の諸施設やサービスのご案内から、お買物相談に至るまで、お客さま一人ひとりのご要望に的確にお応えするため、西武百貨店では全店舗にコンシェルジュを配置しています。



(2005年8月現在80人)

「ハートフルアドバイザー」が お客さまのお買物を サポートします

「ハートフルアドバイザー」は財団法人総合健康推進財団が認定する民間資格で、高齢者や障害をお持ちのお客さまが来店された際の店内案内、移動の介助など、お買物のお手伝いをするための知識と技術を身につけています。西武百貨店では2001年からこの資格取得をめざす研修を実施し、すべてのお客さまに安心してお買物を楽しんでいただけるよう努めています。

(2005年6月現在、認定者253人)



「ハートビル法」に準拠した バリアフリーの店舗設計を進めています

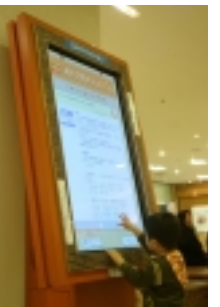
西武百貨店では、高齢者や障害をお持ちのお客さまにも利用しやすい建築物について基準を定めた「ハートビル法」に準拠した店舗設計を進めています。1999年に開店した東戸塚店や2000年開店の岡崎店では、車椅子のお客さまやベビーカーでもスムーズに出入りできるスロープや、段差のないフロア設計、簡単にエレベーターの操作ができる低位置運転盤と点字付運転盤、店舗入口に設置した点字案内盤、および介助者呼び出し用のインターホンなどを設置。また、2004年8月～2005年3月には船橋店を皮切りに、高槻店、筑波店、八尾店の4店舗がリニューアルし、施設の見直しと整備を行いました。

障害をお持ちの方やお年寄り、お子さま連れのお客さまにも気軽にお買物を楽しんでいただくために、これからも全店舗のバリアフリー化を進め、快適な店内の環境づくりに努めます。

リニューアル店舗 (船橋店・高槻店・筑波店・八尾店)のサービス事例

タッチパネル式館内情報ビジョン「ふれてビジョン」(4店舗)お客さまが知りたい情報を、お客さま自身で選択してすばやく得ることができる情報ビジョンを各階に新設。車椅子のお客さまや小さいお子さまにも届くよう、低位置に操作ボタンをつけました。車椅子でもご利用いただける広いフィッティングルーム(船橋店・高槻店)

間口145cm、奥行き145cmの広いフィッティングルームを設置。車椅子でもゆったりご利用いただけます。車椅子用公衆電話(高槻店・筑波店)車椅子にお乗りになったままご利用いただけます。親子化粧室(船橋店・高槻店)ベビーカーも一緒に入れる広いスペース。お子さまも安心してご利用いただけます。介助車(ショッピングカート)の貸し出し(筑波店)お年寄りの方も使いやすい、手荷物やお買い物袋が収納できるタイプです。





お客さまに信頼される百貨店をめざして

私たちにとって最も大切なことは、お客さまに安全・安心に心地よくお買物していただくための環境を常に築き、維持し続けることです。店舗オペレーションでは、施設、商品、接客サービスなど、あらゆる面から安全・安心に取り組んでいます。

自衛消防隊による防災訓練の定期的実施

地震・火災などの災害はいつ発生するかわかりません。これらの事態が発生した場合の対応を定め、万一の場合にも冷静に適切な行動がとれるよう、各店舗で自衛消防組織を編成し防災訓練を実施しています。防災訓練は社員のみならず、テナントの従業員などを含めた店舗に勤務する全員が、年4回以上参加することを義務づけています。

また、安全・安心のために日頃より守るべきルールを定め、火災などの発生の防止と万一発生した場合の被害拡大の防止を図っています。

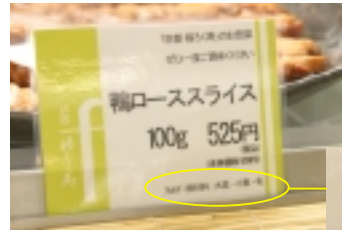


2005年4月20日開店前、旭川店で実施された防災訓練。旭川店自衛消防隊員約450名と旭川市消防団約40名が参加し、避難誘導や放水などの訓練を行いました。

安全・安心な食をご提供

素材や製法、産地など、お客さまの食に対する関心がこれまで以上に幅広く、奥深いものになっている昨今、お客さまに「食の安全」をご提供することは、われわれ小売業者の当然の使命・義務です。

西武百貨店では、本部機能を担うミレニアムリテイリングに「商品適正表示小委員会」を設けるとともに、各店舗でも「商品適正表示小委員会」を設置し、行政機関のご指導もいただきながら安全・安心な売場づくりに日々努めています。



プライスカードのアレルギー表示例

アレルギー原材料 大豆・小麦・乳

個人情報保護への取り組み

社会の一員として、お客さまから信頼を得て企業が健全に発展し続けるためには、お客さまの個人情報の保護が極めて重要であると考えています。

西武百貨店ではお客さまの個人情報の取り扱いに関するルール「個人情報保護方針（プライバシーポリシー）」と「個人情報保護ルール」を全従業員に徹底。2005年4月1日の個人情報保護法施行を前にした2005年2月、全従業員を対象に「個人情報保護法一斉考査」を実施し、再徹底しました。

社内報でも2004年12月号から2005年3月号にかけて「コンプライアンス通信」のページで毎月、個人情報の取り扱いについての啓発とルールの説明を繰り返し実施しました。

大津店異臭事故を心よりお詫び申し上げます

2005年6月10日(金) 大津店において異臭事故が発生しました。

これは、店内の冷房とトイレ排水に使用する水に処理用薬剤を投入する際、誤って他の薬剤タンクに投入したため、刺激臭が発生し店内に流出してしまいました。

西武百貨店はこの事故を厳粛に受け止め、再発防止策として、薬剤の保管場所を別々の場所にする。薬剤の容器・投入場所を識別化(色分け)する。作業は複数の人間で行う。

以上を全社に指示・徹底しました。今後も、行政機関のご指導のもと全社をあげて一層の安全対策に取り組んでまいります。

お客さまならびに地域の皆さまに大変ご迷惑・ご心配をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。

労働環境の改善



チャレンジングな風土づくりを目指して

仕事の成果を公正に評価し処遇するために、西武百貨店では「目標管理制度」を導入しています。半期ごとに本人と上司による目標設定を行い、その結果の達成度に応じて評価・処遇を行います。常にチャレンジングな目標に向け自己研鑽する風土をめざしています。

販売のプロ・おもてなしのプロをめざして

販売のプロをめざす社員のキャリアアップをサポートするために、各種資格取得の支援・促進を組織的に実施しています。

靴売場のシューフィッターをはじめ、衣料品のフィッター、子どものシューアドバイザーやベビーコンサルタント、進物のご相談を承るギフトアドバイザーなど、多くの専門販売員を計画的に育成するための支援を行っています。



風通しの良い職場づくりを目指して

社員一人ひとりが安心して生き生きと働くことのできる職場風土をめざして、従業員とのコミュニケーションを大切にしています。各店舗では、毎月労使にて「職場会議」を開催し職場環境の改善に努めています。また、「店長への声Box」を設置し、職場環境や職場内での問題点を速やかに解決するよう努力しています。



職場環境改善のための仕組み

メンタルヘルス・ケア研修

西武百貨店では2004年度より売場マネージャーである係長職以上を対象に、メンタルヘルス研修を実施しています。メンタルヘルスの専門家による講習や、事例を学ぶことを通して、部下に対する接し方やこころのケアについても組織的に学習しています。

イエローホイッスル制度

経営の透明度を高め、コンプライアンス意識を徹底するとともに、職場での問題を専門的・組織的に解決するために、2004年度より「イエローホイッスル制度」をスタートさせました。これは社員が不適切であると思ったことを直接、社外の弁護士に通報できる制度です。

西武百貨店の環境・社会活動に関する情報提供

社外のさまざまな方々と、環境コミュニケーションの輪を広げています。

利害関係者からのコミュニケーション (環境情報への対応)

西武百貨店ではお客さまやお取引先、行政機関など、社外のさまざまな方々に環境情報を提供し、環境コミュニケーションの輪を広げていくよう努めています。2004年度(2004年3月1日～2005年2月28日)に受信した環境情報は59件。地域の環境イベントや環境活動にも積極的に参加しています。

情報の種類	件数	前年差
アンケート・調査表への協力依頼	31	+10
キャンペーンへの協力・エコフェア出展依頼	13	1
外部団体への参加依頼・講師依頼	7	2
法規制・条例・その他情報	2	2
苦情・ご意見	0	2
お礼状	0	1
その他	6	+1
計	59	+3

【主な内容】

- 環境省 - 「循環型社会形成の推進に関する取り組み状況調査」アンケートへの回答依頼(2004年3月)
- 環境省 - 「環境にやさしい企業行動調査」アンケートへの回答依頼(2004年3月)
- 環境省 - 「ライトダウン2004ブラックイルミネーション」協力依頼(2004年6月)
- 秋田県生活環境文化政策課 - 「第4回あきたエコ&リサイクルフェスティバル」への出展依頼(2004年6月)
- 沼津市環境政策課ISO推進課 - 「第16回沼津フリーマーケットフェスティバル - 環境パネル展 -」出展依頼(2004年12月)
- 昭和女子大学短期大学部 - 「企業社会での環境教育に対する取り組み」についての講演依頼(2004年4月)
- 旭川市 - 「旭川市廃棄物減量等推進審議会委員」委嘱(2005年2月)
- 横浜市環境事務局 - 「容器包装類等の削減に向けた環境にやさしい取り組み行動協定書に関わる覚書」提出依頼(2004年6月)
- 渋谷区神南小学校 - NHK共催の体験学習にあたり、店内取材要請(2005年1月)
- CCC自然・文化創造工場 - 環境シンポジウム「くまちゃんの森を守ろう～森で学ぶ、大自然の恵みと循環 その2～」共同開催(2005年2月)

西武百貨店ホームページの中に 環境サイトを開設しています

「環境への取り組み」



<http://www.seibu.co.jp/corporate/ecology/main.html>
ISO14001規格認証取得サイト、環境方針、前年度の活動報告、環境・社会活動報告書(PDF)、毎月の環境活動トピックスを掲載しています。

「エコキッズルーム」



<http://www.seibu.co.jp/corporate/ecology/ecokids/>
小学校高学年のお子さま向けに、地球にやさしいデパートの活動を紹介しています。

環境社会活動報告書

- 2000年版(2000年9月発行:初版)
環境マネジメントシステムの導入からISO14001規格の認証取得、第1回の定期審査までの活動報告。
- 2001年度版(2001年8月発行)
環境負荷の少ない商品開発と店舗運営の仕組みなどを紹介した前編と、環境マネジメントに関する情報を掲載した後編の2部構成。
- 2002年度版(2002年6月発行)
2001年度版をさらに進化させ、環境保全活動・社会貢献活動を報告した本編と、環境マネジメントシステム編を分冊化。
- 2003年度版(2003年9月発行)
「環境・社会活動報告書」と名称を改め、環境的な側面に加え、経済的・社会的な側面を含めて報告。サイトレポートとして地域や店舗の特性に即した個々の取り組みについても紹介。
- 2004年度版(2004年8月発行)
環境的な側面を中心としながら、企業の社会的な責任にもとづく取り組みとして社会的・経済的な側面を含めた報告。2003年度版で環境目的・目標の達成度に重点を置いた各店舗の活動状況を、地域社会に貢献する情報に絞り込んで紹介。
- 2005年度版(2005年9月発行:本誌)
2004年度版に引き続き、環境的な側面を中心としながら、企業の社会的な責任にもとづく取り組みとして社会的・経済的な側面を含めた報告。西武百貨店の目指す「人にやさしい百貨店」の取り組みとして、盲導犬育成事業支援をはじめとした社会貢献活動を詳しく紹介。

環境・社会活動の歩み

<2005年6月までの活動を含む>

- | | | | |
|----------|--|----------|--|
| 1990年 7月 | エコ包装の取り組み開始。包装紙・手提袋・名刺などの社内用品に再生紙使用開始 | 10月 | 本社員向け環境教育に「eラーニング」導入
「くまちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン」植樹(第2回) |
| 1991年 8月 | 「西武百貨店エコロジーハンドブック」発行 | | |
| 1992年 8月 | 独自の「環境商品基準」にもとづいた環境商品にアイキャッチマーク(エコノザウルス)表示 | 2003年 3月 | 「エコプロダクツ2002」出展
使用済みプリペイドカード
「みんなで集めようキャンペーン」で(財)ジョイセフに寄付(第2回) |
| 1995年 3月 | 関東圏10店舗で「ハンガー・納品」システム導入 | | |
| 4月 | ファミリー・ケア・ダイヤル開設 | 5月 | 「環境方針」改訂(経済・社会視点を追加) |
| 9月 | 成果主義にもとづく新人事制度、目標管理制度を導入 | 6月 | ミレニアムリテイリングの事業会社として再スタート
温室効果ガス排出量取引試行事業(環境省/三菱総合研究所)に参加 |
| 1998年 3月 | 社内報で環境活動についての連載開始 | 9月 | 『環境・社会活動報告書2003』発行 |
| 4月 | ISO14001規格認証取得に向けた活動を開始 | 10月 | 「くまちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン」植樹(第3回) |
| 8月 | 女性社員の制服に再生ペット素材を使用 | 12月 | ミレニアムリテイリング3本部(総務・商品・テナント)環境活動開始 |
| 9月 | 「環境方針」制定 | | |
| 11月 | 環境活動アイキャッチマークを社内募集 | 2004年 2月 | 本社員に加えパートナー社員(契約社員)に「環境eラーニング」導入 |
| 1999年 4月 | ISO14001規格認証取得(4月9日) | 3月 | 使用済みプリペイドカード
「みんなで集めようキャンペーン」で(財)ジョイセフに寄付(第3回) |
| 10月 | ハートビル法モデル店・東戸塚店開設(エコステーション設置店) | 5月 | ミレニアムリテイリング3本部(総務・商品・テナント)
ISO14001規格登録 |
| 2000年 4月 | 西武百貨店「環境記念日」(4月9日)制定 | 6月 | イエローホイスル制度導入 |
| 6月 | 「西武オリジナルエコロジーバッグ」販売開始 | 8月 | 『環境・社会活動報告書2004』発行 |
| 9月 | 『環境活動報告書2000』発行
ハートビル法モデル店・岡崎店開設(エコステーション設置店) | 9月 | 盲導犬育成事業支援店頭募金活動開始 |
| 2001年 4月 | 西武百貨店「環境記念日」に「西武オリジナルエコロジーバッグ」収益金の一部を地球環境基金に寄付(第1回) | 10月 | 「盲導犬ふれあいキャンペーン」開催
「くまちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン」植樹(第4回) |
| 6月 | ハートフルアドバイザー資格取得開始
メンタルヘルスカウンセリング導入 | 2005年 3月 | 「くまちゃんの森を守ろう」
環境教育シンポジウム開催(池袋店)
盲導犬育成事業支援店頭募金(2004年9月～2005年2月分)を全国7カ所の盲導犬育成支援団体に寄付 |
| 8月 | 『環境活動報告書2001』発行 | | |
| 10月 | 「くまちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン」植樹(第1回) | 5月 | 使用済みプリペイドカード
「みんなで集めようキャンペーン」で(財)ジョイセフに寄付(第4回) |
| 11月 | 池袋店に生ゴミ処理機7台導入 | 6月 | 労使にて社会貢献企業内基金
「西武ミレニアム基金」設立
盲導犬育成事業支援社内募金制度
「西武ワン! コイン倶楽部」設立 |
| 12月 | 敬宮愛子さまご誕生記念
「子供たちの未来の森」苗木配布
「エコプロダクツ2001」出展 | | |
| 2002年 2月 | 「商品適正表示小委員会」設置 | | |
| 3月 | 使用済みプリペイドカード
「みんなで集めようキャンペーン」で財団法人ジョイセフ(家族計画国際協力財団)に寄付(第1回) | | |
| 4月 | ISO14001規格 第1回登録更新
西武百貨店「環境記念日」に「西武オリジナルエコバッグ」
収益金の一部を地球環境基金に寄付(第2回) | | |
| 6月 | 『環境活動報告書2002』発行
西武のおすすめする環境配慮商品の表示開始
「eco包装アイデア」社内コンテスト実施 | | |
| 8月 | 本西武に生ゴミ処理機2台導入 | | |



「くまちゃんのどんぐりを育てようキャンペーン」植樹



「盲導犬育成事業支援店頭募金」寄付



使用済みプリペイドカード
「みんなで集めようキャンペーン」寄付

= 環境活動 = 社会活動